

アンケート結果を受けて改善したいところ 【人文社会科学系】

授業の難易度と一回当たりで扱われる授業内容の量は問題がなかったようである。ただ、丁寧に説明しているつもりであったが、それでも学生に対する配慮が十分でなかったかもしれない。さらに気を配る努力をしたい。

授業の難易度と一回当たりに扱われる授業内容の量は問題なかったようである。ただ、初めて使用したテキストであったため、こちらにも余裕がなく、学生に対する配慮が十分でなかったかもしれない。今後は、学生が理解できたかどうかをしっかりと確認しながら授業を進める努力をしたい。

週あたりの学習時間(課題・レポートに費やす時間も含む)については、「なし」の回答割合が56%もあった。課題やレポートは数回課したので、「なし」がこれほど多いというのは納得できない数字である。ただ、全般的に自学自習の習慣がないのも実態であろう。

遅刻には気をつけねばと思う

問1・問12の回答において、①～②のプラス回答が、問1では全体の96.3%、問12では全体の84.8%を占めたことから、教養科目の多文化理解という所期の目標はほぼ達せられたととらえている。しかし、問2・問3・問11において、③～⑤のマイナス回答が、問2では57.6%、問3では60.5%、問11では60.6%を占めたことに改善点があると受け止めた。授業の双方向性を強化して、課題に対して自らが問題点を見出し、アプローチし、発言する・行動するということが達成できるように、今後、さらに留意して授業を構築したい。

受講者数が多いため、個々の学生への細かな指導や助言が行き渡らないところもあったため、学生とのコミュニケーションをとるための方策について、今後検討していきたい。

今年度初めて担当した科目であったので、当初作成したシラバス(2月時点)とは少し変更して、授業を行った点である。どのような学生が割り振られるか、また、英語力がどのくらいか、学生の興味関心はどのような点か等が把握できない時点でシラバスを作成したのが原因である。授業の2回目までに学生アンケートを実施し、興味関心、学習経験等の調査を行い、シラバスを改訂したが、古いシラバスを見て受講した学生の期待に添えない部分もあったかもしれない。今後は、さらにきめ細かく調査を進めてから、授業を設計したい。初めて教養や英語の授業を担当し、不備な点が多いと反省していたが、「授業がおもしろい」などの感想をもらって、うれしかったので、今後、改善に努めたい。

採点のための時間が取れる見込みがなく、レポートを3回課す予定だったのが、2回になってしまった。同様の理由で、授業内レポートの回数も予定より少なかった。これらの点を改善したいと思う。

授業の難易度について「難しい」が45.9%、「難しすぎる」が10.8%あり、また一回で扱われる授業内容の量について、「多い」が32.4%、「多すぎる」が5.4%あった。一方で、この授業のための週あたりの学習時間は「1～2時間」以下が94.6%を占めた。

ここから、授業内容に対する予習や復習を学生に求め、それを前提とすることで授業時間内での内容を絞り込むことによって、適正化することを目指すべきであると考えている。具体的には、単位に見合った量の授業外学習を強く求めるとともに、自然と十分な準備ができるように課題の出し方を工夫し、授業内容のスリム化のみならず、準備によって強い達成感が得られるような内容としたい。

全体的には、問1に対して大半の学生が肯定的な捉え方をしているが、問7の学習目標の達成についてはクラスのほぼ40%前後の学生が肯定的に受け止めているにとどまっている。授業に真面目に取り組んで英語を使ってみても、「英語が使えるようになる」という目標に対して、半期の講義で自信を持たせるのは難しい。講義中に、学生が英語を使う場面をもっと増やす必要があると考える。

「この授業で、新しい考え方や知識・技能が身についた」とする生徒が80%近くにのぼったことは、生徒の興味を喚起し、親しみやすい語学の授業を心がけてきた結果と受け止めている。「授業の難易度」が、「難しい」と答えた生徒が40%を超えたことは真摯に受け止めもう少し生徒にわかりやすい授業を再考してみようと思う。「この授業の内容をさらに学びたい」と回答した生徒が50%ほどいたが、今後はさらに、学生が興味や関心を持ち、面白いと思えるような授業を執り行い、魅力的な授業ができるよう心掛けたい。

「この授業で、新しい考え方や知識・技能が身についた」とする生徒が90%近くにのぼったことは、生徒の興味を喚起し、親しみやすい語学の授業を心がけてきた結果と受け止めている。「授業の難易度」が、ちょうどいいと答えた生徒が60%ほどだったことや、「この授業の内容をさらに学びたい」と回答した生徒が70%ほどいたことも、物語っている。今後も、学生が興味や関心を持ち、面白いと思えるような授業を執り行い、魅力的な授業ができるよう心掛けたい。

授業外学習の時間に関して、7割の学生が1時間未満しか費やしていないので、授業外学習の時間数が増えるように工夫したい。

発表形式授業においては発表担当グループは責任を持って準備しますが、他方予習をしないで授業に臨む学生が多いという難点があります。初回の授業で予習は必須であることを伝えましたが、発表後の質疑応答時には質問は出ずディスカッションに発展しませんでした。予習をしていないので、疑問点が明確になっていない状態でした。只、授業後に個々に質問に来ましたので、疑問点を共有すべく授業中に疑問点を提示すべきと指導しました。これは改善点の一つです。授業中に疑問点を提示しやすいようなクラスの雰囲気を作るべく授業運営の改善を図りたいと考えます。もう一つの改善点は、全員参加型とすることです。そのためには、発表箇所を選定することによって発表時間を半減させ、後半の時間はテーマを設定し、グループあるいはクラスでディスカッションをすることによって全員が発言する時間を作りたいと考えます。それによって、英語文章の内容理解も深まり、発表グループ以外の学生も授業に参加したという意識が深まると考えます。

特に法律学を大学で学ぶ事を志しているわけではない学生が受講するという点を過度に意識したために、学生によっては物足りなさを感じるようになってしまったかもしれないことを反省点として考えている。学校教員の活動との関連性が高い事項・憲法条項から講義における解説と検討をスタートすることで、より先端的な憲法学・教育法学上の議論を扱う講義内容にする可能性を模索しようと考えている。

基本的に好意的な評価であったと思う。具体的には、問8の「教員の話し方は聞き取りやすい」が「強くそう思う」と「ややそう思う」の合計が59.4%、問9の「教員の説明はわかりやすい」が同62.1%、問10の「教材・教具（板書、プロジェクター、配布資料等）はわかりやすい」が同65.6%、問13の「授業の難易度」が「ちょうどよい」が75.7%という数字に表れていると判断する。

学生たちの評価は比較的良かったように思う。特に授業の難易度や分かりやすさ、聞き取りやすさが高い評価だったので、率直に言って嬉しい。今後も学生たちの異文化に対する視野を広げていけるような授業を心がけていきたい。

題目が抽象的でわかりにくいとの指摘があった。「言語の収奪」ではなく「言語の諸相」とすべきであった。

授業時に提示する課題の設定に際しては、一定の努力・工夫を経て初めて自分なりの理解に到達できるレベルのものを用意したつもりであったが、アンケートの記載による限り、これが難解過ぎたようである。この点については、もう少し、わかりやすい課題設定にする等の工夫をしなければならないと考えている。

(1)「久しぶりに英語の授業が面白いと思えた」といったアンケート結果が多く、受講生には概ね好評であったと思う。特に、「裏ワザ流英語」の指導が好評だったので、次からはこの指導の時間を多目に取るようなことも考えてみたい。(2)「学生どうして授業内容を深めあった」という項目が「どちらともいえない」の回答が多かったが、今後、学生どうして英会話の練習をするようなプラクティスの導入も検討してみたい。(3)「この授業のための週当たりの学習時間」の回答が、かなり低かったので、今後は講師それぞれがある程度負荷のかかる宿題を課すなどして、授業外の学習時間を増やすようにしたい。

授業時間を延長してしまうことについて、意見が出ていた。外部講師は時間ぎりぎりまで話をしたいという熱意を持っている方が多く、結果的にそのようになってしまったことがあったと思う。改善はすぐには難しいが、外部の方との事前打ち合わせにより労力を割くことで対応を考えていきたい。

メディア制作を中心として、理論と実践を往還するかたちの授業であったことが、レポートにおける記述の内容をそれなりに豊かにしてくれた。アンケートでは問3や問12において③が、また問15において④が少なからずみられることから、さらに自主的な学びにつなげていけるようにする必要があると考える。

学生と教員間のコミュニケーションは取りにくい印象があったが、アンケート結果でもそれが如実に出ていた。レポートに対する回答は実際問題として数が多く、対応しきれない。

授業の難易度、1回あたりで扱われる授業内容の量ともに「ちょうどよい」と答えた学生が8割を超えていた。この授業のための週当たりの学習時間が1時間未満が7割、別のクラスでは1～2時間が4割で、もう少し多くの課題を与えて、個人での事前・事後学習にも取り組んでもらえばよかったと思う。

学生が自ら考え答えを導き出し、それを表現するという目標に向かっての示唆が、多少弱かったかもしれない。よって今後は、小テスト形式で提出してもらおう中で、その点を克服したい。

受講生が少なく、担当教員として指導しやすかったこともあり、個々の設問に対してまとまりのある回答を得られたように思われる。ただ板書事項を丁寧にわかりやすくするという点、全ての履修者がより積極的、意欲的に授業に参加できるように取り組んでいきたい。

【F英語コミュニケーションI】授業の難易度については、「ちょうどいい」と答えた学生が7割弱、「難しい」と答えた学生が2割強を占めていたため、今のレベルを基本的には維持しつつ、必要に応じてヒントを多めに与えたり解説を詳しくしたりするなど、理解を促す工夫をしていきたい。また、「授業内容の量」は、5割弱の学生が「ちょうどいい」、4割の学生が「多い」と回答しているため、やや量を減らす方向で検討したい。さらに、スピーキングの時間を制限せず、もっと増やしてほしいとの要望があったため、時間的及び人数的な条件が許す範囲で、出来る限り善処したい。

【F英語II】授業の難易度については、「ちょうどいい」と答えた学生が7割で、残りの学生が約半数ずつ「易しい」「難しい」と回答していた。そのため、基本的には今のレベルを維持しつつ、必要に応じてヒントの量や解説の内容を調整するなど、個々の学生に合わせた対応を心がけたい。また、「授業内容の量」は、6割弱の学生が「ちょうどいい」、3割弱の学生が「多い」と回答しているため、量を僅かに減らす方向で検討していきたい。

同様の内容の授業を本学より小人数の英語コミュニケーション科目や他大学の20名以下のクラスでも実施しましたが、やはり、コミュニケーションを主体とした授業形式であったため、小人数のクラスで効果的で授業評価も好評であったと思われます。英語IIは今年度でなくなりませんが、40名や50名といった大人数の外国語のクラスでの運営方法を考えたいと思います。

単純にとらえられないのかもしれないが、アンケートを見ると授業外での学習時間がまだ少ないと思われるので授業でだす課題について検討したいと考えている。

コミュニケーションスキルをのばすための授業であるため、ペアワークやグループワークは取り入れたい。また、プレゼンテーションについては、もう少し準備時間を取り、アドバイスやフィードバックを増やしたい。(英コミ1)

世界の様々なトピックに関するリーディング教材であったが、学生が興味を持って臨んでくれるよう、これからも吟味したい。予習復習をきちんとしてくれた学生には比較的理解しやすいものであったと思う。ただ、個々の学生について判断するのは難しいため、これからできるだけ学生の進捗状況に気を配り指導してゆきたい。(英語2)

教材のレベルがそれほど高くないので、英語がわりとできる学生にとってはやさしい内容だったと思います。そのため、ほとんどの学生が「ちょうどいい」を選び、予習のための勉強にも積極的に取り組めなかった。次回は、少し教材のレベルを上げてみるつもりです。

可能な限り受講生の視点に立つようにし、彼らとのコミュニケーションを大切にしつつ、様々なアイデアを取り入れながら、効果的な授業が展開できるよう努めたいと考えるしだいである。

未だ双方向的な授業という点では課題が多く、一方的に教員の方からの情報伝達の方が多く感じられる。今後は、もっと学生の身近な問題関心から憲法の議論につなげていけるような工夫をしていきたいと思っている。

【L多文化リテラシー】学生どうして授業内容を深めあった、という項目の評価が高くなかったので、学生どうして話し合い、発表する機会を設けるなどして改善したい。
【L市民リテラシー】授業の難易度が比較的高かったようなので、見直したい。

約50名の学生とうまくコミュニケーションをとることは非常に難しいと感じたところ、来年度については何らかの工夫を行っていきたい。